WEEKLY 一宮

題字　PG　安野譲次

Rotary Ichinomiya

The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日　●例会場 一宮商工会議所　●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話〈0586〉24-1931　〒491-0858

世界に希望を生み出そう

URL:http://rc138.org　E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp

重文 「陵王」面　真清田神社蔵

会　　長 足立　誠　会長エレクト 佐々木久直

幹　　事 冨田隆裕　副幹事 鵜飼雅弘

副 会 長 山上哲司　会報委員長 野村和弘

2023年9月21日
第3564回例会

プログラム

ガバナー補佐訪問
西尾張分区ガバナー補佐
則竹 伸也君 （一宮RC）

ロータリーソング 「それでこそロータリー」

第3563回例会の記録
2023年9月14日（木）

会長挨拶　足立 誠

今週は、再び従来の流れから「仏教」、とくに寺院についてのお話をさせて頂きます。

京の都「永観堂」は秋の紅葉で有名ですが、「中尊寺金色堂」の由来と近年の状況について、今回述べたいと思います。

「金色堂」は10年程前に訪問の機会が有りました。高校時代国語で習った『奥の細道』の中の松尾芭蕉の2つの俳句「夏草や兵どもが夢の跡」「五月雨の降り残してや光堂」は、皆さんもご存知でしょうし、私も大好きな句です。

どんな立派な寺院でも、過去においては栄枯盛衰の現実がありました。平泉藤原三代の栄華によって中尊寺は栄え、その滅亡によって次第次第に衰退を余儀なくされました。奥州藤原氏の菩提寺としての中尊寺は、創建の後約500年後にかの地を訪れた芭蕉の先の俳句の如き有様であったのでしょう。後の鎌倉時代に造られ朽ちかけた覆堂の中に佇む「金色堂」（光堂）は、さぞ哀れなものであったことでしょう。

今私が皆さんにお伝えしたいのは、信仰と文化財保護の有り方です。寺はどんな寺であっても信仰の対象でなくてはいけません。第2次世界大戦以降、文化財の保護は国によって強力に推し進められ、後世に残す努力は、目を見張るものがあります。

他方この保護の有り方次第で、折角の由緒、歴史の重み、そして人々の信仰の証が無くなっては、本末転倒ではないでしょうか。金色堂は、覆堂から替わって現代的な鉄筋コンクリートの建物の中に入り、須弥壇は螺鈿・漆等々新品と見まごう程の修復がなされていますが、参詣される方々と仏との間には無情にも透明のしきりが有ります。多少傷んでも旧来の本来あるべき姿には、出来ないのでしょうか。「諸行無常」とまでは申しませんが、日々刻々私たちも仏も寺院も変化するところが、私たち日本人の情緒に合致するのではないでしょうか。

次回の予定
イニシエーションスピーチ
荻本正久君
小林由洋君

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

国際ロータリー第2760地区
2023－2024年度 西尾張分区ガバナー補佐
則竹 伸也君 （一宮RC）

生年月日　1952年11月29日
職業分類　米穀卸・米飯・総菜製造
勤務先　共和食品工業㈱
役　職　代表取締役

ロータリー歴

2001年4月　一宮RC入会
2009～10年度　S. A. A.
2014～15年度　幹事
2019～20年度　会長

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

委員会報告

ロータリーの友9月号紹介は紙面の都合上次週掲載いたします。

ニコボックス　墨 大輔

☆ 足立 誠君　冨田隆裕君

本日、朋和設備工業株式会社代表取締役、服部宏様に堀川の浄化についての市民運動について卓話を頂戴いたします。宜しくお願い致します。

出席報告

現在の会員数	111名
本日の出席数	53名
前々回の出席率	100%

＊＊＊＊＊＊ プログラム ＊＊＊＊＊＊

卓 話

服部 宏氏

朋和設備工業㈱代表取締役）

テーマ「市民の力が行政を動かし
あの汚かった川がよみがえり始めた」
～ 堀川 1000 人調査隊市民活動から ～

1.「人はほんのちょっとしたきっかけで変わる人が変わると川も変わる」

私は名古屋で生まれ、大学まで名古屋で過ごしました。卒業後、銀行に就職しましたが、30歳の時、事情により退職し、家業の給排水・空調設備工事会社に入社、45歳の時に社長になり23年になります。

私が堀川の浄化活動に関わるようになったのは、47歳の時、大学の先輩から声を掛けられて参加したのがきっかけです。

それまでの私は、ただただ仕事をするだけの人間で環境の「か」の字にも堀川の「ほ」の字にも関心がありませんでした。しかし、堀川に関わるようになってから、私自身がそうであったのですが、目の前でまるでオセロゲームのように、普通の市民が、どんどん堀川大好き人間にかわってゆくのをみてきました。そして堀川のファンが増えるのに伴って、汚かった堀川が、どんどんよみがえり始めたのです。

「人はほんのちょっとしたきっかけで変わる人が変わると川も変わる」これが、今日のお話の最大のキーワードです。

2. 堀川を変えたのは「戦略的アプローチ」

堀川は1610年に名古屋城の築城とともに開削された「名古屋の母なる川」と呼ばれる運河です。その水運は、長い間、大切な物資の輸送手段として使われていましたが、陸運が主となり、水運が廃れるとともに川も汚れ、高度成長期の昭和40年頃には汚染がピークに達しました。

「母なる堀川」をきれいにしようと、昭和60年頃から国も県も市も一緒になって堀川の浄化に取り組み始めましたが、なかなか目に見えた成果はあがりませんでした。堀川の浄化が一気に進み始めたのは今から約20年前のことです。1999年に堀川浄化を願う署名運動が2カ月足らずで20万人を集めたのをきっかけに市民の機運が一気に盛り上がり、2003年に第1次堀川1000人調査隊が発足、それまで点で動いていた市民が、線でつながり、面に広がって、大きな力となって動き始めました。戦略的な発想のキーワードは「民官産学の堀川大連合」でした。

思いを同じくした大きなネットワークの力で行政を突き動かしてゆこう。それが当初からの狙いでした。熱い想いをもった市民が、情熱的に活発に動き、それを堀川1000人調査隊が要となってコーディネートしてゆくことによって、次々に成果が出始め、それを見ていた行政も、市民とともに動くことを決断、組織と人員、予算を強化しました。

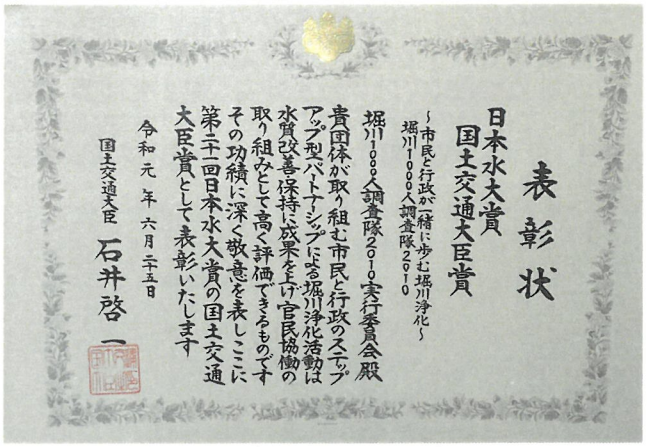
堀川1000人調査隊のネットワークは、オセロゲームのように広がり、市民の力が行政を動かし、結果として堀川がよみがえり始めたのです。

3.「主役は市民、ものをいったのは小さな実績の積み上げ」

堀川1000人調査隊のネットワークは主役が市民、一番上に幅広い市民がいて、実行委員会や事務局は下から裏方になって支える「逆ピラミッド型組織」です。参加する市民は全て平等で、上下関係はありません。ものを言ったのは、半年ごとに市民と行政が合同で開催する「調査隊会議」でした。

これまで半年ごとに32回開催し、その都度市民と行政で実験⇒検証⇒修正⇒実験のPDCAサイクルを回し続けて成果をあげてきました。

一つ一つは小さな成果ですが、積み上げてきた実績はとてつもなく大きなものになってきました。そんな実例を皆様にご紹介できたことを本日は大変うれしく思います。



表彰状

日本水大賞
国土交通大臣賞

～市民と行政が一緒に歩む堀川浄化～
堀川1000人調査隊2010

堀川1000人調査隊2010実行委員会殿

貴団体が取り組む市民と行政のスクラップアップ型パートナシップによる堀川浄化活動は水質改善保持に成果を上げ官民協働の取り組みとして高く評価できるものです。その功績に深く敬意を表しここに第二十二回日本水大賞の国土交通大臣賞として表彰いたします

令和 元 年 六月 二十五日

国土交通大臣 石井啓一